

*注：現在、中央児童公園にある忠魂碑は、昭和48年9月9日に除幕式を行いました。大正10年に建立した忠魂碑の台座が損傷したため、碑の主柱（碑石）、玉石台（台石）はそのまま活かし、台座を全面的に取の替えました。

（略）碑は明治の末期あたりから、既に木製の碑（桂の太木で18尺のもの）が現在の場所に建っていて、時折、藤田さん（床屋）という達筆家が書き替えをしては祀っていたと言われます。

これが大正9年頃になり、腐食のため倒れてしまい、翌10年に当時の在郷軍人会常呂分会長岸留吉氏、常呂青年会長小林千代松氏が中心となって再建について協議、検討をして、資金的問題などについては在郷軍人会、労力奉仕は青年会が、また、土地及び庶務の問題は大柿村長が相談を受けるといふようなことで期成会ができ、いよいよ着手したのが大正10年の5月でした。

碑文は大柿村長を通じて、当時の旭川第七師団長内野辰次郎中将に依頼された。内野中将は日本の師団長の中では三筆豪の一人と言われた達筆家であったと言われます。

碑の設計及び碑文の彫刻については、越前（今の福井県）若杉の人で、上杉商店の石倉造りをした石工頭領の笈田小太郎氏に一式請け負ってもらったことになり、工事の元工は、青年会から毎日4〜5名の使役に出されることに決まりました。

（略）英霊は郷土の人たちですから、郷土産の石材を使って碑石、台座を造ろうということになり、笈田頭領を先頭に村内の石探しが始まり、現在の小峰沢、5番地の沢、オキザル（豊浜）、ポントマリ（常呂港付近）周辺まで毎日腰弁当で探しに出かけたが、どこへ行っても石質が悪く探し出すことができず、ついに断念しました。

一方、村内の石探しとは別に、郡境付近に住んでいた山崎さん（通称ゲンコツ山崎

一説には四斗酒樽の鏡をゲンコツで抜いたという豪傑）という方がこの辺の地理に詳しく、能取岬にあるのがどうかということになり、急遽それに決定した。（現在の能取岬分校跡の前浜から200メートルくらい東寄り）

当時、このような大きな物は陸送が不可能であったため、舟輸送以外になく、岸分会長は安部豊次郎さんに相談をした。当時、安部さんは「安部艇部」と称し、艇荷役業を営んでおり、大艇4隻を持っていたと言われます。また、安部さんと岸さんは親交が深く、「ヨシ」それでは艇に舟頭をつけて貸すということに決まり、貸し賃は一切無料、その他にロープ、滑車など必要なものがあればお使いください、ということになりました。

が、さてこれを能取岬から曳航する船はどのにするか、ということになり、当時、常呂と網走間の定期連絡船であった大正丸が良かろうとなり。船主の山本栄吉氏に交渉した結果、快く承諾してもらい、輸送問題は解決。

運搬の日取りは、6月中頃の風の日と決まり、舳舟の舟頭は多田留吉さんが艫權（ともがい）を操り、現在の商工会の裏あたりに荷揚げしたといわれます。

また、当初、忠魂碑と聖徳太子碑は同じ場所に建っていたが、後年、聖徳太子碑は天龍寺の住職が寺の護り神にしたいという希望もあり、現在の天龍寺に移ったと言われます。

碑石はこうして決まったが、台石は笈田さんが、ポントマリの善助澗（現在の常呂港東防波堤から東寄り200メートルくらいの場所）で、その昔、秋月善助というアイヌの頭の漁場であった）で発見した。

やはり輸送は舳舟で、当時、木材の流送、舳木材荷役を営んでいた小笠原三平氏からポン舳（小型の舳の意）を借り、岸さん他6人くらいの人が乗り込み、あと数人は陸路をたどり、積み込みを手伝った。

（略）台石は無事にポン舳に積み込まれ、善助澗を出帆したのは昼過ぎ…（略）何とか常呂へ着いたものの川へ入ることができず、一旦オキザルの荷上場に下ろされた。これを海岸から道路のある平地まで引き揚げるのに神楽棧（人力巻上機）を据えつけ、大勢の人で巻き上げ、土櫓に乗せた石をコ口を敷きながらオキザルから弁天を通り、旧常呂橋を渡って、本通り、大通りを経て現在の場所の下まで1日、翌日、坂の下から上に揚げるのにまた半日かかったと言われます。

（略）こうしている内に内野中将の碑文が届き、笈田頭領指揮の下に青年たちは台座の基礎工事に着手、笈田頭領は碑文を碑石に刻み、いざ建立となったのは9月中頃になったと言います。

さて、この細長い碑石を半円形の自然石の台座に垂直に立てるのは非常に難しいので、現場の指揮を安部豊次郎さんがとることになり、安部さんは「この仕事は非常に危険を伴う仕事だから、すべてを俺に任せて他の者は一切口を出すな」と前置きし、在郷軍人会、青年たち合わせて40〜50人集まった人の指揮をとり、無事完成したと言われ、方法は、棧木を組み、ブロックにロープをダブルにして、神楽棧で吊り上げたと言われます。

当時、サンナシの木が生い茂り、狐が遊んでいたと言われる現在の場所を切り開いて入魂式を兼ねて落成式の会場を作り、役場からの酒と紅白の餅で落成式が行われたのは9月の末近く、お互い「良かった良かった」の連発で手を取り合って喜んだと言われます。